

水草研究会から学ぶ

持田 誠*

私の研究テーマは農業・農村環境の植生や植物地理です。修士論文のテーマは林間放牧地の植生でしたが、その他にも畑の雑草やため池の水草フロラを調べてきました。水草との関わりも、ため池や水田、用水路と云った、農業に関わる環境に生きる植物という観点から始まったものです。同時に、水草の分類を専攻する研究室の良き先輩と、その人が所属していた水草研究会との出会いがあります。

初めて研究会に参加したのが一昨年の宇都宮大会からなので、まだまだ研究会員としての歴史は非常に浅いです。しかし、この間に日本の水草が置かれている環境が、農業構造と実に密接に関係し、また、農業の変化によって危機に瀕している実態を、大会や会報から次々に知らされました。現在、札幌市・北広島市・江別市に跨って広がっている道立自然公園野幌森林公園内に点在するため池の水草フロラを作っていますが、ここも周辺農地の転作によって、徐々に農業水利としての機

能を失いつつあり、水草相の維持にとって厳しい状況になりつつあります。

私の研究室は植物園で、教官も皆、理学部の出身です。しかし、私は農学部の学生であり、あくまで農学徒としての視点を持ちつつ植物地理学を見つめたいと考えています。実際は農学部に居ても、なかなか農業や農村の実態を知る機会が少ないのが実情ですが、可能な限り現場へ出てみて、そこに成立しているフロラや植生の中から、産業としての農業、暮らしとしての農村、自然環境としての水草を始めとする植物相が共存していく道を探りたいと思っています。

水草研究会には実に様々な分野の人たちが集い、水草という共通項を舞台に多くの知見を集積しているように見えます。農学の立場からも得る事の大きい貴重な場所です。若手の一人として積極的に発信できるものを開拓し、小さくても密度の濃い、楽しくて有意義な水草研究会の発展に助力していきたいと思っています。

*北海道大学大学院農学研究科 (植物園)